

第5回 建コンフォト大賞

あなたのお気に入りの“土木施設”

当協会では、広く一般の方々の土木施設への興味を高め、建設コンサルタントをより知っていただくために、平成21年より「建コンフォト大賞」を年1回開催しています。今回は「あなたのお気に入りの“土木施設”」をテーマに、道や橋、鉄道、上下水道、空港や港、公園や堤防など、私たちの日常生活を支える土木施設のある風景を撮影いただきました。

平成25年度も、当協会ホームページやフォトコンテストに関する情報提供サイトへの掲載、全国の公共図書館や高校写真部へのポスター配布などで作品を募りました。

その結果、全国の幅広い年齢層の方々から221点の応募をいただきました。

審査方法

ご応募いただいた作品は、審査委員（5名）および当協会広報事業専門委員会による審査会にて審査しました。

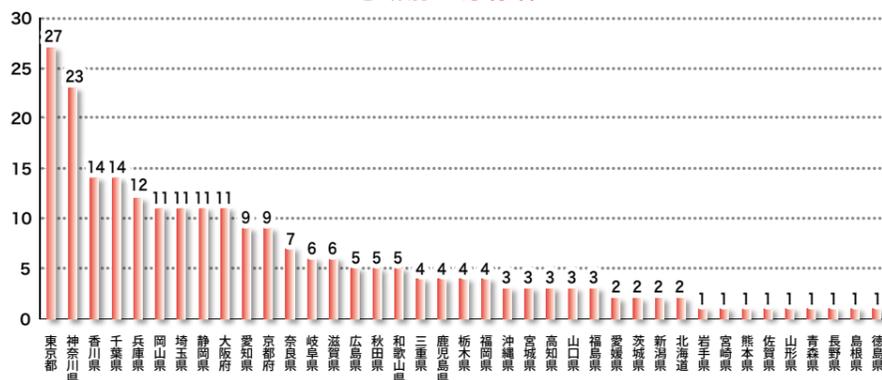
審査結果

最優秀賞1点、優秀賞2点、特別賞10点を決定しました。入賞作品と講評は次ページ以降に掲載するとおりです。

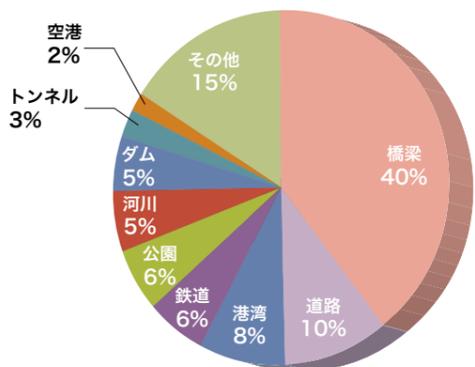
審査委員

- 審査委員長 伊藤 清忠（東京学芸大学名誉教授）
- 審査委員 宇於崎 勝也（日本大学准教授）
- 知野 泰明（日本大学准教授）
- 初芝 成應（日本写真作家協会会員）
- 長谷川 伸一（建設コンサルタンツ協会広報戦略委員長）

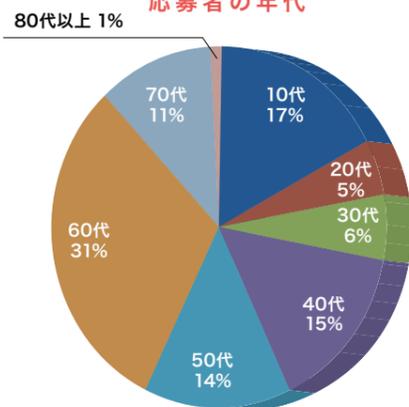
地域別の応募者



写真撮影の対象



応募者の年代



最優秀賞



「反転世界」
秋田県 坂谷 専一
(撮影地：秋田県大潟村)

【撮影者のコメント】

日本最大の干拓地である大潟村は、自然に形成されたものがない全てが人の手によって作られたものです。どこまでも続く真っすぐな道や、広大な農地など、どこを見ても、そのスケールの壮大さに驚きます。中央幹線排水路は、私の中で最も好きな場所で、ここから見える夕陽や雲模様が、いつも新鮮で心を穏やかにしてくれます。

講評

日本最大干拓地大潟村の最も人工的な施設である中央幹線排水路が、色・形・変化に富む魅力的な雲・並木・夕陽によって昇華され、水面で絶妙に増幅された秀作です。最も人工的な施設でありながら、不自然さを感じさせない作品です。（伊藤審査委員長）

空の景色が静かな水面に映りこんだ非常に美しい作品です。タイトル通りみごとに「反転」し、木々や雲が水面下にあるように感じさせます。土木施設が持つ静謐の時を感じさせます。（宇於崎審査委員）

白黒の古写真に色彩を施したのかと思わせるノスタルジックな風景。それが反転した青と風雲を伴って不思議な世界となりました。天に昇った「八郎瀧の八郎」の心を映し出したかのようです。（知野審査委員）

波紋一つ無い鏡のような水路に、映し出された雲の織りなす模様をシンメトリーに捉えたのは、写真でしか成し得ない見事な作品です。排水路とはいえこの美しい情景を造りだしている土木と自然美をカメラは巧みに引き出しています。（初芝審査委員）

果てしなく連続する堤と林と静寂水面が、広大な青空の中の動きのある雲を閉じ込めて映し出す光景、まさに世界が反転したと錯覚する幻想的な作品です。運河という土木と自然現象の対比、濃紺水面と鮮やかな空の青の対比も印象的です。（長谷川審査委員）



「生月大橋」

神奈川県 森 義晴

(撮影地：長崎県生月島)

【撮影者のコメント】

瓦屋根、曇り空、その空をうけた海水などの地味な色の中に、生月大橋がくっきり写りました。

講評

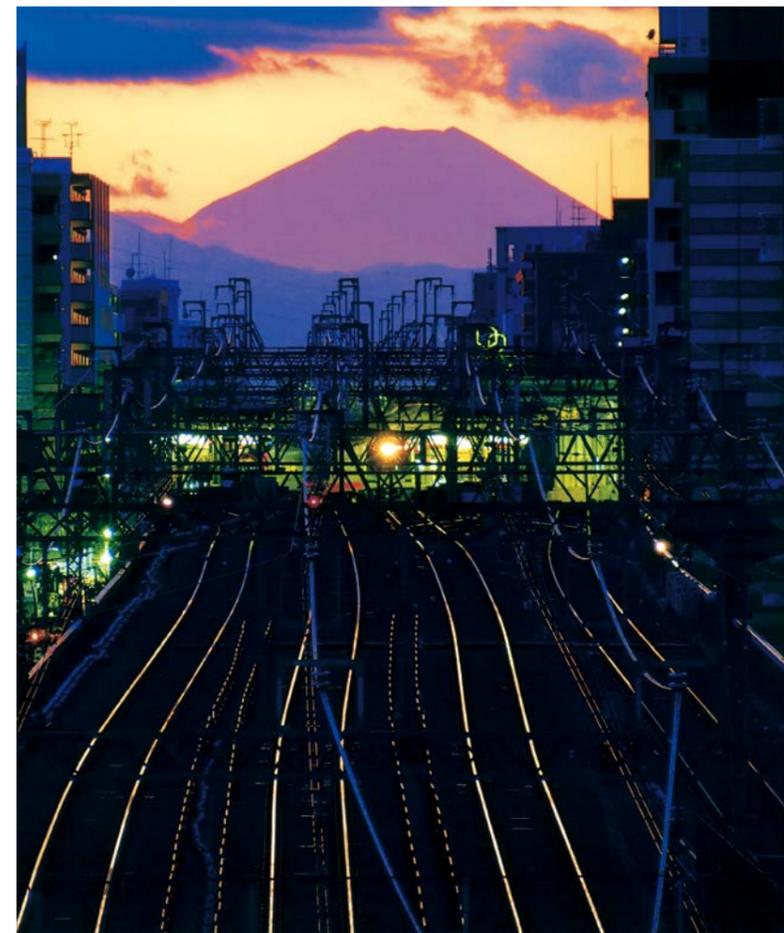
明るい青緑の「生月大橋」、ややくすんだ青の海水、明るくすんだ青の曇り空、黄色がかった護岸、灰色を基調として手前に広く展開する瓦屋根。濃い青緑の山をバックに、青緑の「生月大橋」が、鮮明に浮かび上がり主役になっています。(伊藤審査委員長)

長崎県の辰の瀬戸を跨ぐ近代的な橋の全体をとらえるとともに、手前の黒瓦の家並みが伝統的な住まい方を想像させ、その対比が面白いです。港内の風景が少し寂しい気もするが、画面全体としてはバランスもよく、重厚さを感じさせます。(宇於崎審査委員)

日本の伝統的な瓦の風景。そのリズム感と新しい橋の構造が一体となり、新旧の色彩とテクスチャーの対比が織り成す風景となりました。時代の引継ぎのワンシーンなのかも知れません。(知野審査委員)

概して屋外はベストな状況下で撮影しますが、この作品はあえてアンダーに挑み、色鮮やかな現代色カラー塗装の大橋と郷愁を感じさせる海辺に迫る密集した、民家の黒く古い瓦屋根が対照的で面白い作品です。(初芝審査委員)

雄大な空と山の自然を背景に日夜、社会の動きを支えている橋梁は、その存在感を示しているにも関わらず、手前に密集する古びた民家の雨露を防ぐ瓦屋根の下にある生活を威圧せず調和しているコントラストが感じられる作品です。(長谷川審査委員)



「富士山に向かって」

埼玉県 中根 英治

(撮影地：東京都渋谷区幡ヶ谷)

【撮影者のコメント】

この場所からは富士山の方角にまっすぐ向かって行く線路が見られます。天気の良い日の夕方には、夕日に照らされた線路が、夕日のシルエットとなった富士山に向かって行く、きれいな情景を見ることができます。

講評

富士山・雲・山などの自然物の有彩色と、建造物・建築・線路などの人工物の黒(無彩色)の対比、特に自然の絶妙な色、富士山の若紫・空のくちなし色・雲と山の天壇青が秀逸であり、富士山や雲の輪郭の猩紅は効果的です。自然物の形・材質と人工物の形・材質の対比も良いです。(伊藤審査委員長)

沈む夕日を浴びて富士山の稜線のシルエットが美しく、京王線笹塚駅に向かう光り輝く線路はまさに富士山に向かって敷かれているかのよう。雄大な自然と日常的に利用する交通施設がみごとに組み合わせられた意外性の高い作品です。(宇於崎審査委員)

富士山の神々しい姿の影から、金色となって流れ落ちる雨だれのように鉄路が長く光ります。東京に出現した不思議な風景の瞬間が留められました。(知野審査委員)

線路と遠くの富士を捉えたアングルの面白さが表現されています。手前の線路周辺は暗く、その先の富士山は明るい夕日が影絵のように映っています。(初芝審査委員)

富士山をバックにオレンジ色の夕焼けが鮮やかな面的世界と、そこに向かっていくかのように伸びる線路も落ちる夕日を受けて輝いている線的な世界、動かない大自然と現在社会の接点が光が取り持っている作品です。富士山の不思議な色合いも良いです。(長谷川審査委員)



「未来への道」

愛知県 加藤 謹一

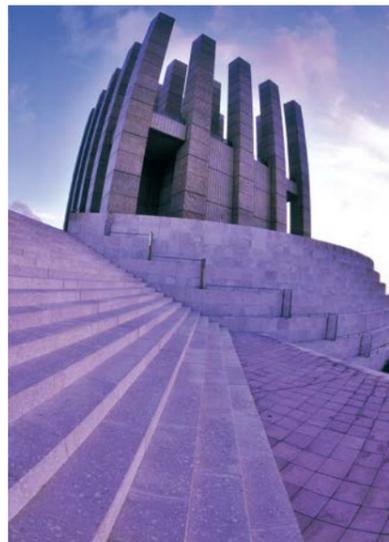
(撮影地：岐阜県美濃加茂市山ノ上町)

【撮影者のコメント】

広い公園内を移動しているときにこのトンネルを通ります。肉眼では「色のライトが点滅しているな」と思う程度ですが、写真に撮ってみると「未来へつながる道」という幻想的なイメージになり感動しました。

講評

一見サイケデリックな色彩に包まれた、トンネルとは思えない、不思議な世界を捉えた見事な作品です。特にタイトルの「未来への道」と色彩空間を通る親子が未来に向かっていくのに相応しい情景です。



「そびえ立つ」

沖縄県 仲程 梨枝子

(撮影地：沖縄県那覇市)

【撮影者のコメント】

「三重城タワー」という「那覇うみそらトンネル」の付帯施設です。トンネル内の換気のための構造物になります。東シナ海に沈む夕日を見に当施設を訪れましたが、思いもよらず夕焼けに照らされた「三重城タワー」が美しくシャッターを切りました。タワーと階段との組み合わせが面白いと思いました。

講評

「那覇うみそらトンネル」のタワーである換気施設の上方に伸びる形と、西前方からの夕焼けの光を活用し、上方からではなく側面をピンク色に染め、形と色によるアクセントとして活かした秀作です。



「水の交響」

兵庫県 久保田 修

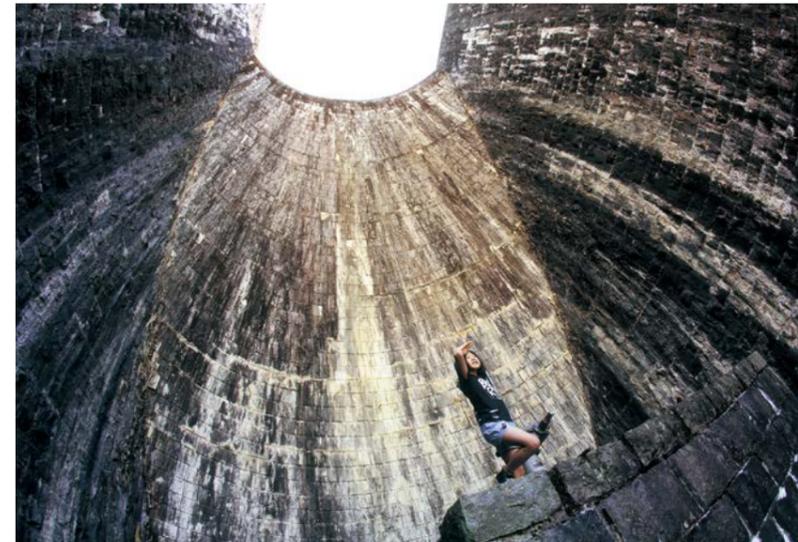
(撮影地：兵庫県神戸市北区)

【撮影者のコメント】

千刈水源は近代産業の遺産の案内板があり、今も現役中の施設です。その形状は美しく、水の流れる所も凹凸のウロコ状にしてあり、さらさらと水の音が響き合います。古人は視覚と聴覚に美しく、実用の施設を作られたのだと感心させられます。

講評

近代産業遺産である「千刈ダム」は、美しい形・材質感・落ち着いた色の表現により視覚を充たし、滑り落ち響き合う水の音で視覚を満足させ、心地好い凹凸で触覚を満足させています。永年の風雨に堪えた土木施設であることを表現しています。



「ここはどこかな？」

香川県 楠本 毅

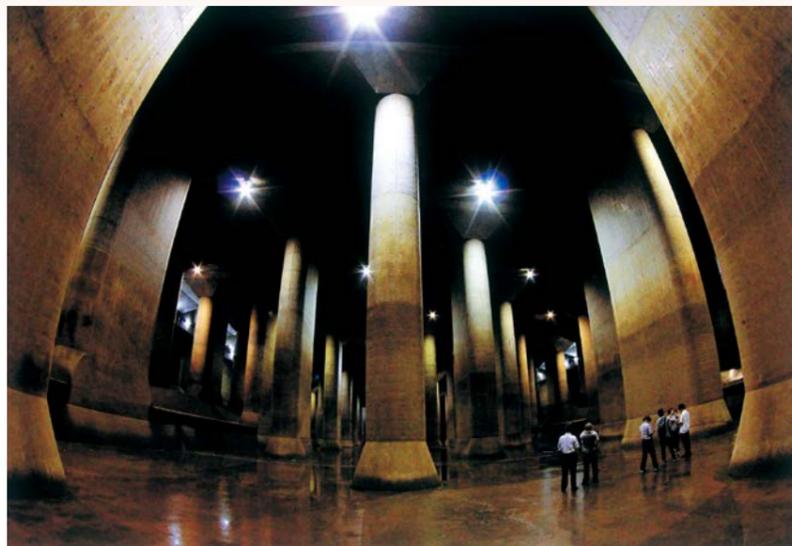
(撮影地：香川県観音寺市大野原町)

【撮影者のコメント】

豊稔池ダムは、日本最古の石積式マルチプルアーチダムで、国の重要文化財に指定されています。ダムの下（公園）から眺める景観は雄大な古城を感じさせてくれます。アーチの中から上を見上げると、そこはまるで古城の塔の中にいるようで異国を思わせてくれました。

講評

ここは国の重要文化財「豊稔池ダム」の中。しかし、少女にとっては古城の探検となりました。もうすぐ頂にて満々たる水と対面する少女は、どんな顔に変わるのでしょか。



「地下神殿」

神奈川県 平野 昌子

(撮影地：埼玉県春日部市)

【撮影者のコメント】

首都圏外郭放水路は、あふれそうになった中小河川の洪水を地下に取り込み、地下50mを貫く総延長6.3kmのトンネルを通して江戸川に流す世界最大級の地下水路です。日本の土木技術のレベルの高さに感動するとともに、ゲリラ豪雨や台風から見えない所で暮らしを守ってくれている土木施設に改めて感謝の気持ちでいっぱいになりました。

講評

地下の日常生活空間を曲面で映し出すことで、パルテノン神殿のような雰囲気を出し、天井が闇の中に溶け込んで星が輝く夜空に柱が際限無く伸びる、日常生活の場が神殿になり、人の姿もなぜか戸惑いを見せているように見えるのも面白いです。



「石積み」

岡山県 藤森 保男

(撮影地：岡山県岡山市北区河原落石)

【撮影者のコメント】

石積みで造られたダムはめずらしく、無機質なセメントではないどこか暖かみを感じます。また、同じく石積みでエコな日時計が側にあって、どちらも手作り感イッパイです。

講評

岡山県の黒谷ダムは石積みで、その手前に同じように石造の日時計があります。陽があたらず、何時かは不明ですが、珍しく美しい構造の土木施設とモニュメント的な施設の同質感があり、時計の中で時が止まったような感覚を醸し出す作品です。



「アーチ型の沈下橋」

高知県 雪本 信彰

(撮影地：高知県吾川郡仁淀川町久喜)

【撮影者のコメント】

昭和10年建設の沈下橋。高知県内に現存する沈下橋では最古といます。岩盤をコンクリートで補強し、アーチ型の桁を架けているのが珍しく、気に入っているところです。ここは川幅が狭くなっており、その分、流れが激しくなるため、それに耐えうるアーチ構造にしたそうです。周辺の岩に罅穴も見られます。今も地域の生活道として利用しています。欄干のない橋を普通車がすいすい渡っていきます。久喜橋ができるまでは少し上流に船の渡しがあったそうですが、周辺はのどかな山の風景です。川釣りのポイントでもあります。

講評

大自然の秘境の中にある対岸の丸い岩石を食べようとして、巨大な灰色の体を持つ物体が触角を伸ばしているように見え、そんなことにはまったく関係なく、橋を渡る青い軽トラックが向かう先には何かあるのか、自然と生活の空想が膨らむ作品です。



「空を歩くムカデ」

福岡県 奥村 克博

(撮影地：福岡県八女市上陽町)

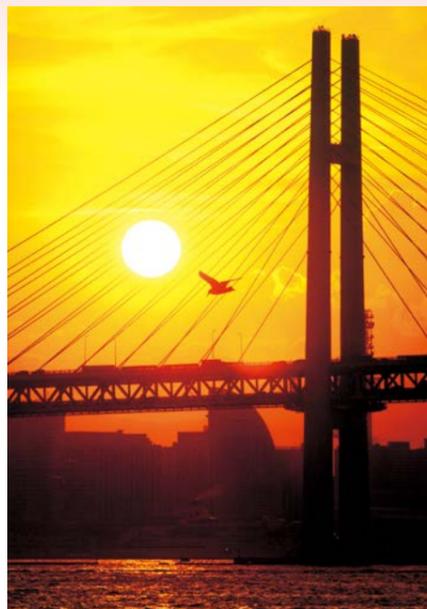
【撮影者のコメント】

八女市に遊びで訪れた際、初めてこの橋を見て、家族全員でビックリ・感動しました。橋の上からは普通の道路にしか見えないのですが、橋を下から見上げると、さらに大迫力な様子を見ることができ、空を歩くムカデのようでした。しばらく橋を眺めた後、出来るだけ広く橋を写すために寝転がって撮りました。

講評

タイトルそのもの。レンズの力も借りて更に迫力ある巨大ムカデと化しました。生み出した土木技術者に敬意を表して言わせてもらえるのならば、風景となった最大級の『ゆるキャラ』が出現したかのようです。

特別賞



「ベイブリッジの夕陽」
神奈川県 松山 進

【撮影者のコメント】

ベイブリッジは横浜の象徴です。多くの人が訪れ、写真におさめますが、通常では夕陽をバックに撮影することができません。しかし反対側の大黒ふ頭海つり公園に立つと夏の間のみ、夕陽をバックにベイブリッジを見ることが出来ます。この日は幸い天候に恵まれ、きれいな夕陽が現れました。シャッターを切っていると突然一羽のカモメがファインダーに飛び込んできました。夢中でシャッターを押すとそのうちの一枚が非常にいい位置にカモメが写っていました。私の会心の作です。

講評

横浜ベイブリッジの斜張橋ケーブルの向こうに沈む夕日をとらえ、カモメが一羽みごとに画面の真ん中に舞った瞬間をとらえた見事な作品です。真ん丸な太陽が手前に浮き出てくるように見え、空から地上に向けて黄・橙・赤と鮮やかな変化を見せる夕焼けの姿が美しいです。



「続く未来」
埼玉県 工原 紅音
(撮影地：東京都江東区)

【撮影者のコメント】

ゆりかもめの先頭車両に乗車した時に撮影。鉄で組まれたトンネルをめぐるたび、東京湾やビルが見えることに感動し撮った1枚です。

講評

巨大で強靱な鉄鋼で組まれた構造物をまじかで速い先頭車両からの撮影は結構難解ですが、その力感、スピード感をモノクロ撮影で表現されています。機会が有りましたら最後尾からの撮影をお勧めします。また、違った表情を見せてくれます。

[入賞作品マップ]

